



雪崩・地すべり 研究センターたより

季刊・第57号
2011. 6月発行

Snow Avalanche and Landslide Research Center, Erosion and Sediment Control Research Group

主な記事 ・今年の地すべりと雪崩の発生状況 ・トピックス ・平成23年度の研究課題
・転入者あいさつ ・平成23年度メンバー

今年の地すべりと雪崩の発生状況



新潟県妙高市平丸 花立地すべり 幅90m 長さ130m

1. 新潟県、長野県の融雪地すべり発生状況

今冬の当センターにおける最大積雪深は 2.70mであり、近年では平成 18 年豪雪時の最大積雪深 2.68mとほぼ同じ積雪深になりました。

図 1 には、新潟県と長野県における過去 10 年間の 1～4 月の地すべり発生件数を示しました。H23 年は新潟県 39 件、長野県 3 件となっており、過去 10 年では新潟県が H14 年 (40 件) に次ぐ 2 番目に多く、長野県

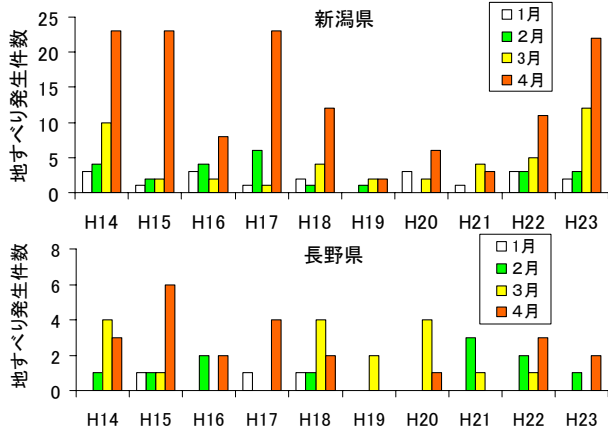


図1 1～4月の地すべり発生件数の推移
(新潟県、長野県砂防課調べ)

は最も少なかった H19 年 (2 件) より 1 件多い年でした。また、発生時期は新潟県では例年 4 月が一番多いのですが、今年も 4 月が一番多くなっています。一方、長野県では例年 3 月または 4 月が一番多いのですが、今年は 4 月が一番多くなっています。なお、今年の融雪期の地すべり発生については、3 月 12 日に発生した長野県北部地震が何らかの影響を及ぼしている可能性があります。

2. 今年度の雪崩の発生状況

北・東日本の日本海側では例年並みか平年よりも少雪でした。一方、西日本では大雪となり、島根県のスキー場で雪崩災害により、4 名の方が亡くなりました。この他にも今冬は、多くの雪崩被害が発生しています(表 1)。

また、3 月 12 日に発生した長野県北部地震により長野県栄村、新潟県十日町市、津南市などで雪崩が発生し、人的な被害はなかったものの、建物への被害や道路の通行止めなどをもたらしました。

表 1 2010-11 年冬期の雪崩災害・事故発生状況

| No. | 発生日 | 発生場所 | 対象 | 被災状況 |
|-----|--------|---------------------|----------|---------------|
| 1 | 11月30日 | 富山県立山町 国見岳 | 山スキー | 2名死亡 3名負傷 |
| 2 | 12月31日 | 鳥取県江府町 奥大山スキー場 | スキーパトロール | 4名死亡 |
| 3 | 1月1日 | 北海道ニセコ町 ニセコアンヌプリ | 山スキー | 1名死亡 |
| 4 | 2月2日 | 北海道小樽市 国道5号 | 除雪作業 | 1名重傷 |
| 5 | 2月11日 | 福島県檜枝岐村 大戸沢岳 | 山スキー | 2名負傷 |
| 6 | 2月28日 | 富山県上市町 剣岳 | 救助訓練 | 1名死亡 |
| 7 | 3月6日 | 群馬県みなかみ町 谷川岳 | 登山 | 1名重傷 |
| 8 | 3月11日 | 長野県白馬村 小日向山 | 山スキー | 3名死亡 |
| 9 | 4月17日 | 新潟県湯沢町 足拍子岳 | 登山 | 5名重軽傷 |
| 10 | 4月26日 | 長野県松本市 湊沢 | 除雪作業 | 1名重傷 |
| 11 | 4月29日 | 長野県白馬村 白馬大雪渓 | 登山 | 3名死亡 2名重軽傷 |

(新聞記事等から人的被害のあったものを整理)

トピックス

■辰口地区斜面崩壊に対する技術支援

5月14日、丸山総括主任研究員が、新潟県の要請により新潟県津川町辰口地区で5月12日に発生した斜面崩壊と崩壊土砂の流出対策に関する技術支援を行いました。この現場は、3月12日に発生した長野県北部を震源とする地震により発生した斜面崩壊が、その後の降雨や融雪等により更に拡大したものです。



■国際会議

6月12～17日に国際雪氷学会主催 雪の物理・化学・構造に関する国際シンポジウムが、ロシア連邦サハリン州ユジノサハリンスクで開催されました。当センターからは、伊藤が「Change of Snow Strength Caused by Rain」、池田が「Property of Non Persistent Weak Layers Observed in Japan」をそれぞれ発表しました。



■学会研究発表会

5月14日に福井市で日本雪氷学会北信越支部研究発表会、5月18～20日に横浜市で砂防学会研究発表会、5月22～27日に千葉市で日本地球惑星科学連合2011年大会が、それぞれ開催されました。当センターからは、表2に示す研究発表を行いました。

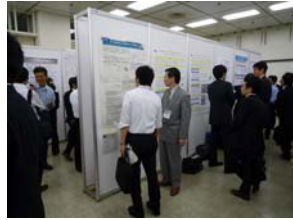


表2 研究発表一覧表

| 学会名 | タイトル | 発表者 |
|---------------------------|--|--------|
| 日本雪氷学会 北信越支部 | 降雨に伴う積雪の強度変化の実験 | 伊藤陽一 |
| | 10-11シーズンにおける雪崩死亡事故 | 池田慎二 |
| 砂防学会 | 雪崩に関するレビューと今後の研究について | 野呂智之 |
| | 地すべり土塊砂質土の地震波載荷試験 | 丸山清輝 |
| | ロジスティック回帰分析を用いた地震による地すべりの危険度評価検討-既存地すべり地形を対象に- | ハスパートル |
| | 地すべり観測事例による地震時の地すべり変動量特性 | 中村 明 |
| 日本地球惑星 科学連合2011 年大会 | 多変量解析手法を用いた地震による地すべりの危険度評価 | ハスパートル |
| | 地すべり観測事例を用いた地震時地すべり斜面の変位と地下水状況に関する検討 | 中村 明 |

平成23年度の研究課題

地すべり部門

- ①流動化する地すべりの発生箇所・到達範囲の予測に関する研究（プロジェクト研究 H23～27）
- ②地すべり対策斜面の耐震性と地すべり斜面の地震時安定性評価に関する研究（基盤研究 H21～

23)

雪崩部門

- ①冬の降雨等に伴う雪崩災害の危険度評価に関する研究（プロジェクト研究 H23～26）
- ②雪崩対策工の合理的設計手法に関する研究（重点研究 H21～23）

転入者あいさつ

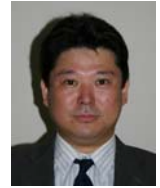
■主任研究員 伊東靖彦

4月に、札幌の寒地土木研究所から異動してきました。雪崩関係の研究テーマに従事することになります。経験や土地勘がなく、ご迷惑おかけすると思いますが、ご指導いただければ幸いです。



■専門研究員 池田慎二

4月から専門研究員として勤務することとなりました。以前は、民間のコンサルタント会社で雪崩対策を中心とした雪氷防災の業務に携わっておりました。「現場での実践と科学的な理論の調和がとれた研究」を目標に職務に励んで参りたいと思います。



転出者

■任期付研究員 伊藤陽一（H18.7～H23.6在籍）

伊藤研究員は、任期満了に伴い6月30日付で退職しました。

平成23年度メンバー

- 所 長 野呂智之
- 主 事 阿部 悦
- 総括主任研究員 丸山清輝
- 主任研究員 伊東靖彦
- 専門研究員 池田慎二
- 交流研究員 中村 明
- 非常勤職員 和田美乃
- 非常勤職員 富里加代子



ニュートンのリンゴの木

写真は、5月12日の状況です。今冬は雪が多かったため、枝が数本折れる被害が出ました。このためか、花が一部の枝でしか咲きませんでした。秋の収穫は、あまり期待できないようです。



雪崩・地すべり研究センターに関する記事は、ホームページにも掲載してありますので、ご覧下さい。

発行：独立行政法人 土木研究所 つくば中央研究所
土砂管理研究グループ 雪崩・地すべり研究センター

住所：〒944-0051 新潟県妙高市錦町2-6-8

TEL:0255-72-4131 FAX:0255-72-9629 URL: <http://www.pwri.go.jp>

掲載内容は現時点までの調査結果等に基づいています。今後の調査研究により内容の一部または全部に変更が生じる場合があることをご了承下さい。